第6回東日本大震災追悼チャリティコンサート 鎮魂と復興への祈り

Giuseppe Verdi: Messa Da Requiem ヴェルディ:レクイエム

指揮:前田幸康

合唱:東日本大震災メモリアル合唱団 ソプラノ 中江早希 アルト 谷地畝晶子 テノール 宮里直樹 バリトン 原田 圭 オーケストラ 東日本大震災メモリアル管弦楽団

> 北と**ぴあ** さくらホール 2017年3月11日(土) 2:00pm開演 1:30pm開場

> > 主催:東京合唱団

ごあいさつ

本日は、第6回東日本大震災追悼チャリティコンサート「鎮魂 と復興への祈り」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

東京合唱団は、他の合唱団からの有志参加者とともに、東日本大震災のちょうど1年後の2012年3月11日に、第1回の本チャリティコンサートを上野学園、石橋メモリアルホールで開催いたしました。その後も毎年同じ時期にこのコンサートを続け、今回は大震災からちょうど6年目に当たる3月11日の記念の日に開催できることになりました。会場は北区文化振興財団のご協力を得て、北とぴあ「さくらホール」に移ることになりました。今回は、ヴェルディのレクイエムを演奏します。今まで、フォーレ、モーツアルト、ブラームスのレクイエム等を演奏してきましたが、今回は壮大で美しい「ヴェルレク」で、東日本大震災の被災者の方々に「鎮魂と復興への祈り」を新たな気持ちでお届けしたいと思います。

これまでのコンサートで得られた純益金は、当日会場での募金をあわせ、被災地の音楽の復興に役立てるため、被害にあわれた老人福祉施設や幼児保育施設にピアノや他の楽器をお届けする費用にあててまいりました。これまでの5年間に、株式会社橋本ピアノ様、及び小野ピアノ調律センター様等のご協力により13施設に14台の再生ピアノを寄贈したほか、2施設に新品の電子ピアノを、3施設に鼓笛隊用のドラム等を寄贈することができました。また、ピアノ等の寄贈に併せて合唱団の有志メンバーが現地を訪問し交流を深めてまいりました。2016年は、大船渡市のケアホーム地域交流スペース「後ノ入」と介護老人福祉施設ふれあいハウス「つばき」の2か所を7月24日(日)に訪問し、ミニコンサートを行っております。被災地音楽復興支援活動の詳細につきましては、本プログラムの12、13ページ、および東京合唱団のホームページに記載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

大震災から丸6年が経ちましたが、被災地の復興はまだ途上にあります。今回も参加者全員、震災で犠牲になられた方々の鎮魂と被災地の一日も早い復興を願い、心を込めて演奏いたします。そして、被災地の音楽復興に少しでもお役に立ちたいと念願しております。今後ともどうぞ変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。なお、東京合唱団では、本年11月11日(土)に紀尾井ホールで、定期演奏会を開催いたします。演目は、A.ドヴォルザークの「スターバト・マーテル」です。こちらの演奏会へのご来場もお待ちしております。

2017年3月11日

Program

ヴェルディ:レクイエム Giuseppe Verdi : Messa Da Requiem

- I レクイエム (入祭唱) Requiem
- Ⅱ 怒りの日(続唱) Dies iræ
 - 1. 怒りの日 Dies iræ
 - 2. 奇しきラッパの響き Tuba mirum
 - 3. 書き記された書物が Liber scriptus
 - 4. 哀れな私 Quid sum miser
 - 5. 恐るべき御稜威の王 Rex tremendæ
 - 6. 思い出したまえ Recordare
 - 7. 私は嘆き Ingemisco
 - 8. 呪われた者 Confutatis
 - 9. 涙の日 Lacrimosa
- Ⅲ 主イエス・キリストよ (奉献唱) Domine Jesu Christe
- IV 聖なるかな (三聖唱) Sanctus
- V 神の子羊(神羊唱) Agnus Dei
- VI 永遠の光(聖体拝領唱) Lux æterna
- Ⅷ 私を解き放ちたまえ(赦祷唱)Libera me

演奏者紹介



前田幸康 指揮 Maeda Yukiyasu Conductor

国立音楽大学卒業。チェロを小沢弘、黒沼俊夫、小野崎純、マルティン・オースタータークの各氏に、指揮を前田幸市郎、伊達良、クラウス・ヘーベルマンの各氏に師事。1973年渡欧、1974年フライブルク市立交響楽団のメンバーとなる。さらに1985年からは、プロアルテ・カンマー・オーケストラ・プライブルクの首席チェリスト、ならびにフライプルク弦楽四重奏団のチェリストも務める。

1990年以降は東京合唱団音楽監督として、日本において指揮活動をしている。W.A.モーツァルト「レクイエム」、J.G.L.モーツァルト「ミサソレムニス」(日本初演)、グラウンのオラトリオ「イエスの死」(日本初演)、ブラームス「ドイツレクイエム」、J.S.バッハ「ミサ曲ロ短調」「ヨハネ受難曲」、フォーレ「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」、メンデルスゾーン「パウロ」、ドヴォルザーク「レクイエム」、プッチーニ「グロリアミサ」等を指揮。

1985年フライブルク市よりカンマームズィカーの称号を贈られ、1989年同市より国際文化交流功労賞メダルを、2009年日本国外務省より国際文化功労賞を授与される。元上野学園大学音楽学部音楽学科教授。



中江早希 ソプラノ Nakae Saki Soprano

北海道出身。北海道教育大学岩見沢校芸術課程音楽コース声楽専攻卒業。東京藝術大学修士課程音楽研究科声楽専攻独唱科修了。現在、同大学院博士後期課程に在籍。大学院アカンサス音楽賞受賞。第14回日本モーツァルト音楽コンクール声楽部門第2位。第78回日本音楽コンクールオペラ部門にて入選。第12回中田喜直記念コンクールにて大賞を受賞。第25回ハイメス音楽コンクールにて声楽部門第1位。第11回東京音楽コンクール声楽部門第3位。オペラでは、モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・アンナ役、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ役、「魔笛」夜の女王役、プッチーニ「ラ・ボエーム」ムゼッタ役、ヴェルディ「リゴレット」ジルダ役などを演じる。また宗教曲では、モーツァルト「ハ短調ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「交響曲第九番」「ミサ・ソレムニス」、カール・オルフ「カルミナ・ブラーナ」、フォーレ「レクイエム」などのソリストを務める。これまでに、声楽を塚田康弘、針生美智子、佐々木典子の各氏に師事。



谷地畝晶子 アルト Yachiune Shoko Alt

岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。東京藝術大学音楽研究科 博士後期課程独唱科修了。第16回日仏声楽コンクール第1位。2012年度三菱 地所賞受賞。第57回藝大メサイア、第28回台東区第九、第349回藝大合唱定 期ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」のアルトソロ、第54回藝大定期オペラ「ファ ルスタッフ」クイックリー夫人を務める。また、J.S.バッハ「クリスマスオラトリオ」「ロ 短調ミサ」「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、 ヴェルディ、ドヴォルジャーク、デュルフレ「レクイエム」、メンデルスゾーン「パウロ」 「エリヤ」、マーラー「交響曲第3番 | 等においてアルトソリストで出演。これまでに、 関西フィルハーモニー、藝大フィルハーモニーなどと共演している。声楽を佐々木 まり子、佐々木正利、故・磯貝静江、故・朝倉蒼生、森晶彦、伊原直子、寺谷千枝子 の各氏に師事。岩手大学、岩手県立大学非常勤講師。



宮里直樹 テノール Miyasato Naoki Tenor

東京藝術大学声楽科首席卒業。卒業時に大賀典雄賞、松田トシ賞、アカンサス 音楽賞、同声会賞受賞。同大学大学院音楽研究科修士課程声楽(オペラ)専 攻修了。2014年度明治安田海外音楽研修生としてウィーンへ留学。2015年度 ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。ウィーン国立音楽大学オペラ科 (Postgraduale) 修了。N響を始めとする国内の主要なオーケストラと多数共演。 小林研一郎氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏、小泉和裕氏らと共演。第23回リッ カルド・ザンドナーイ コンコルソ第2位。スペイン・バレンシアの劇場から2017年 シーズンへの招待を受ける。「ドン・ジョヴァンニ」ドン・オッターヴィオ役、「ラ・ ボエーム ロドルフォ役、「ランスへの旅 リーベンスコフ伯爵、「ファルスタッフ」 フェントン役等で出演。藤原歌劇団本公演にて「愛の妙薬」にネモリーノ役で 出演。これまでに声楽を、市村香枝、藤澤佑一、多田羅迪夫、ラルフ・デーリング、 アルフレード・ブルクシュタッラーの各氏に師事。



© S Imura

原田 圭 バリトン Harada Kei Baritone

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程、及び博士後期課程修了。博士号(音 楽)取得。在学中に安宅賞受賞。「藝大メサイア」公演のソリストとしてデビュー。 東京文化会館新進音楽家オーディション合格、デビューコンサートに出演。第 16回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位入賞、併せて中田喜直賞受賞。第77回 日本音楽コンクール入選。新国立劇場「黒船」、二期会「魔笛」「フィガロの結婚」 「ナクソス島のアリアドネ」、日生劇場「夕鶴」「ヘンゼルとグレーテル」等のオペラ、 また宗教曲のソリストとして多数出演。プラハ国立歌劇場特別演奏会モーツァ ルト「レクイエム」公演にソリストとして抜擢され、プラハ国立歌劇場管弦楽団と 共演。ジャパンアーツ主催、歌劇「夕鶴」公演(現田茂夫指揮、市川右近演出、 佐藤しのぶ主演)の全国ツアーに運ず役で出演。現在、東京藝術大学、上野学 園大学、日本大学藝術学部非常勤講師。二期会会員。



東日本大震災メモリアル管弦楽団

2012年、第1回東日本大震災チャリティコンサート「鎮魂と復興への祈り」のために、上野学園大学の教員有志およびその友人を中心に結成された。日本や海外のオーケストラに所属し、活躍中のメンバーも含まれる。東京KMG管弦楽団の有志も参加。

東日本大震災メモリアル合唱団

2012年の第1回東日本大震災追悼チャリティコンサートを開催後、東京合唱団が第2回コンサートのために改めて呼びかけて結成された。東京合唱団、台東区合唱連盟加盟合唱団、北区合唱連盟加盟合唱団、上野学園大学・同短期大学部学生・職員、東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール等の有志および多数の一般の応募者から成る。

永澤麻衣子 発声·練習指導

Nagasawa Maiko

国立音楽大学声楽科卒業。声楽を瀬戸美子、清水明子、田島好一、吉澤祐江の各氏に師事。また、ドイツや日本においてCh.d.ブロイン氏に師事し、リート解釈などの研鑚を積んでいる。ヴォイストレーナーとして多くのアマチュア合唱団の指導を行なうとともにソリストとしても活動。東京合唱団発声・練習指導者。

平野裕樹子 練習ピアニスト

Hirano Yukiko

日本大学藝術学部を総長賞を受賞して首席で卒業。読売新人演奏会出演。市川市文化会館新人オーディション優秀賞受賞。室内楽を鳩山寛氏、ピアノを神野明氏に師事。ソロ活動としてこれまでに7回のリサイタルを東京で開催。2008年より東京合唱団練習ピアニスト。日仏現代音楽協会、練馬区演奏家協会会員。

水野彰子 練習ピアニスト

Mizuno Shoko

愛知県立明和高等学校音楽科、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学院修士課程音楽研究科器楽専攻室内楽研究分野修了。修了時に大学院アカンサス音楽賞を受賞。ピアノソロの他、声楽伴奏、室内楽、合唱伴奏ピアニストとして活動。

三木蓉子 練習ピアニスト

Miki Yoko

東京藝術大学音楽学部付属音楽高等学校、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。同大学院室内楽科修了。2013年スペインバルセロナに留学。カタルーニャ高等音楽院修士課程修了。ヴァレッタ国際コンクール第1位。第24回市川市新人演奏家コンクール優秀受賞。第3回ロシアンピアノスクール選抜演奏会に出演。東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール、東京合唱団の伴奏ピアニスト。

Giuseppe Verdi: Messa Da Requiem ヴェルディ:レクイエム

I Requiem (Introitus)

Requiem æternam dona eis, Domine, et lux perpetua luceat eis.

Te decet hymnus, Deus, in Sion, et tibi reddetur votum in Jerusalem; exaudi orationem meam, ad te omnis caro veniet.

Requiem æternam dona eis, Domine, et lux perpetua luceat eis.

Kyrie eleison. Christe eleison.

II Dies iræ (Sequenz)

1. Dies iræ

Dies iræ, dies illa, solvet sæclum in favilla, teste David cum Sibylla. Quantus tremor est futurus, quando judex est venturus, cuncta stricte discussurus!

2. Tuba mirum

Tuba mirum spargens sonum, per sepulchra regionum, coget omnes ante thronum. Mors stupebit et natura, cum resurget creatura, judicanti responsura.

3. Liber scriptus

Liber scriptus proferetur, in quo totum continetur, unde mundus judicetur. Judex ergo cum sedebit, quidquid latet apparebit,

I レクイエム(入祭唱)

主よ、永遠の安息を彼らに与えたまえ そして絶えざる光がかれらを照らしますように。 神よ、シオンで賛歌を捧げるのはあなたにふさわしく エルサレムでは誓いが果たされます。 私の祈りをお聞き届けください。 すべて肉なる人はあなたの元に来るでしょう。 主よ、永遠の安息を彼らに与えたまえ そして絶えざる光がかれらを照らしますように。

主よ、憐れみたまえ。キリストよ、憐れみたまえ。

Ⅱ 怒りの日(続唱)

1. 怒りの日

その日は怒りの日 ダビデとシビラの預言のとおり 世界が灰燼に帰す日。 審判者が来たり すべてが厳しく裁かれるとき 人々はどれほど恐れおののくことでしょう。

2. 奇しきラッパの響き

奇しきラッパの響きが 各地の墓から すべての者(=人)を玉座の前に集めるでしょう。 つくられた者(=人)が 審判者に弁明するためによみがえるとき 死も自然も驚くでしょう。

3. 書き記された書物が

書物が差し出されるでしょう。
すべてが書き記された
この世を裁く書物が。
そして審判者がその座に着くとき
隠されていたことがすべて明らかにされ

nil inultum remanebit.

- 4. Quid sum miser

 Quid sum miser tunc dicturus,

 quem patronum rogaturus,

 cum vix justus sit securus?
- Rex tremendæ
 Rex tremendæ majestatis,
 qui salvandos salvas gratis,
 salva me, fons pietatis.
- 6. Recordare
 Recordare Jesu pie,
 quod sum causa tuæ viæ,
 ne me perdas illa die.
 Quærens me, sedisti lassus,
 redemisti crucem passus;
 tantus labor non sit cassus.
 Juste judex ultionis,
 donum fac remissionis
 ante diem rationis.

7. Ingemisco Ingemisco, tamquam reus, culpa rubet vultus meus; supplicanti parce, Deus. Qui Mariam absolvisti, et latronem exaudisti; mihi quoque spem dedisti. Preces meæ non sunt dignæ, sed tu bonus, fac benigne, ne perenni cremer igne. Inter oves locum præsta, et ab hædis me sequestra, statuens in parte dextra.

罪を逃れられることはないでしょう。

4. 哀れな私

そのとき哀れな私は何を言えばよいのでしょう? 誰を庇護者として頼めばよいのでしょう? 正しい者ですら不安に思うそのときに。

- 5. 恐るべき御稜威の王 救われるべき者を恵みをもって救われる 恐るべき御稜威の王よ 慈しみの泉なる方よ、私をお救いください。
- 6. 思い出したまえ 思い出したまえ、慈しみ深きイエスよ あなたが地上に来られたのは私のためであったことを。 その日(最後の審判の日)に私を滅ばさないでください。 私を尋ね求めて、あなたは疲れ、腰を下ろされた 十字架を堪え忍び、私をあがなっくださった。 これほどの労苦が無駄になりませんように。 裁きをもたらす正しき審判者よ 裁きの日の来る前に 私に赦しの恩寵をお与えください。

7. 私は嘆き

私は罪人のように嘆き 罪を恥じて顔を赤らめます。 神よ、赦しを請う者に慈悲をお与えください。 (マグダラの)マリアを赦し 盗賊の願いをもお聞き入れになった主は 私にも希望を与えられました。 私の願いは分不相応なものですが 情け深いあなたですから私にご好意を下してください。 私が永遠の火に焼かれませんように。 私に羊(=救われる善人)の群れの中の席を与え 牡山羊(=滅ぼされる悪人)から遠ざけ あなたの右側においてください。

8. Confutatis

Confutatis maledictis, flammis acribus addictis. Voca me cum benedictis. Oro supplex et acclinis, cor contritum quasi cinis: Gere curam mei finis.

9. Lacrimosa

Lacrimosa dies illa, qua resurget ex favilla judicandus homo reus: Huic ergo parce Deus.

Pie Jesu Domine, dona eis requiem. Amen!

III Domine Jesu Christe (Offertorium)

Domine Jesu Christe, Rex gloriæ, libera animas omnium fidelium defunctorum de pænis inferni et de profundo lacu.
Libera eas de ore leonis, ne absorbeat eas tartarus, ne cadant in obscurum: sed signifer sanctus Michael repræsentet eas in lucem sanctam, quam olim Abrahæ promisisti et semini ejus.

Hostias et preces tibi,
Domine, laudis offerimus.
Tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus,
fac eas, Domine, de morte transire ad vitam,
quam olim Abrahæ promisisti
et semini ejus.

8. 呪われた者

呪われた者たちが口を塞がれ 激しい炎に向かわされるとき 私を、祝福された者たちとともにお呼びください。 ひざまづき、ひれ伏して私は祈ります 灰のように砕かれた心で。 私の終わりの時の不安を御心にかけてください。

9. 涙の日

涙の日、その日は 罪ある者(=人)が裁きを受けるために 灰の中からよみがえる日。 神よ、この者(私)をお赦しください。

慈しみ深き主、イエスよ 彼らに安息を与えたまえ。アーメン。

Ⅲ 主イエス・キリストよ (奉献唱)

主イエス・キリストよ、栄光の王よ この世を去ったすべての信者たちの魂を 地獄の罰と深い淵から解き放ってください。 かれらの魂を獅子の口から解き放ってください。 彼らが冥府に呑み込まれませんように。 彼らが闇へ陥りませんように。 旗手聖ミカエルが 彼らの魂を聖なる光へと導いてくれますように かつてあなたがアブラハムとその子孫に 約束されたように。

主よ、私たちは賛美の生け贄と祈りを あなたに捧げます。 それらの魂のためにお受け取りください 今日、私たちが記念している魂のために。 主よ、それらの魂を死から生へとお移しください かつてあなたがアブラハムとその子孫に 約束されたように。

IV Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus, Deus Sabaoth.
Pleni sunt cœli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis!

Benedictus, qui venit in nomine Domini. Hosanna in excelsis!

V Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, dona eis requiem. Agnus Dei, qui tollis peccata mundi, dona eis requiem sempiternam.

VI Lux æterna (Communio)

Lux æterna luceat eis, Domine,

cum sanctis tuis in æternum,

quia pius es.

Requiem æternam dona eis, Domine,

et lux perpetua luceat eis.

VII Libera me

Libera me, Domine, de morte æterna, in die illa tremenda, quando cœli movendi sunt et terra. Dum veneris judicare sæculum per ignem.

Tremens factus sum ego, et timeo, dum discussio venerit, atque ventura ira.

Dies iræ, dies illa, calamitatis et miseriæ, dies magna et amara valde. Requiem æternam dona eis, Domine: et lux perpetua luceat eis.

IV 聖なるかな (三聖唱)

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな 万軍の神、主よ。 天と地はあなたの栄光に満ちています。 いと高きところにオサンナ*。(*救いたまえの意)

主の御名において来る者たちが祝福されますように いと高きところにオサンナ。

V 神の子羊(神羊唱)

世の罪を取り除かれる神の子羊よ 彼らに安息を与えたまえ。 世の罪を取り除かれる神の子羊よ 彼らに永遠の安息を与えたまえ。

VI 永遠の光(聖体拝領唱)

主よ、彼らを永遠の光で照らしたまえ 聖者と同じく、彼らをも永遠に あなたは情け深くあられるのですから。 主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ そして、絶えざる光がかれらを照らしますように。

Ⅶ 私を解き放ちたまえ(赦祷唱)

主よ、永遠の死から私を解き放ちたまえ その恐ろしい日 天と地が震い動くその日に。 主はこの世を火をもって裁くために来られます。

私は震え、恐れおののく 審判が下り、怒りが注がれようとしているゆえに。

その日こそ、怒りの日、災いの日、悩みの日 そして大いなる悲嘆の日。 主よ、彼らに永遠の安息を与えたまえ そして、絶えざる光がかれらを照らしますように。

ヴェルディのレクイエム



ジュゼッペ・ヴェルディ (1813-1901)

オペラ史上もっとも偉大な作曲家5人を挙げるとしたら、あなたは誰を選ぶだろうか。私なら、モーツアルト、ヴェルディ、ワーグナー、プッチーニとリヒャルト・シュトラウスで決まりであるが、これにはもちろん異論もあろう。ドニゼッティ、ロッシーニあるいはビゼーを推す人もいるだろうし、他にも偉大なオペラ作曲家が大勢いることは確かである。しかし、先に挙げた5人は、作品数、優れた音楽性、豊かな物語性、世界での演奏回数、歴史的な人気度、どれを取り上げてもすべて超一流ではないだろうか。中でも、ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)は、どのオペラ専門家やアマチュアのオペラ愛好家にとっても、必ずトップ5人のリストに入ってくる作曲家だと思う。

そのヴェルディのレクイエムである、オペラチックでないはずがない。このレクイエムは、イタリア

の詩人アレサンドロ・マンゾーニ(1785-1873)の 追悼のために作曲されたものである。マンゾーニ は近代イタリア標準語の完成にも貢献した詩人・ 文学者で、1967年から1979年までイタリアの10 万リラ紙幣の肖像にも使われたほど、イタリアで 敬愛された人物であった。ヴェルディはこの詩人を 非常に尊敬しており、その死に際して深く悲しん だ。そして、ミラノ市長に対し1周忌に「マンゾー 二追悼のためのレクイエム」の上演を提案した。 初演の演奏費用さえ市が払ってくれれば、楽譜製 作代、指揮料・リハーサル費用はヴェルディ自身が 負担するという、市にとっては願ってもない好条件 であった。こうして初演は、マンゾーニの1年後の 命日1874年5月22日の夜、ミラノのサン・マルコ 教会で計画通り行われた。100人のオーケストラ、 120人の合唱、4人の著名なソリストの演奏に満 員の聴衆は熱狂したと伝えられている。その熱狂に応えて、3日後にはスカラ座で演奏が繰り返されたが、その演奏も更なる大反響で讃えられた。このレクイエムの成功は世界中に伝えられ、上演依頼が殺到した。ヴェルディは、ミラノの初演後、パリ、ロンドン、ウィーンでこのレクイエムを上演して巡るツアーに出ている。

このレクエイムは、ヴェルディがオペラ「アイーダ」(1871年が初演年、以下同じ)で世界的な大成功を収めた2年後に書かれている。1850年代、「リゴレット」(1851)、「イル・トラヴァトーレ」(1853)、「ラ・トラヴィアータ(椿姫)」(1853)、「仮面舞踏会」(1859)など、立て続けにオペラの傑作を生みだした。これで世界的な名声を確立した後、生まれ故郷のサンターガタで農場経営に引っ込みたかったヴェルディだが、世間は放っておかなかった。ヨーロッパの歌劇場からオペラ作曲依頼が引きも切らず、その後「運命の力」(1862)、「ドン・カルロス」(1867)を生み出し、続いて前述の「アイーダ」(1871)、最高傑作の評価が高い「オテッロ」(1887)、オペラ・ブッファの至宝「ファルスタッフ」(1893)につながっていくのである。レクイエムは、

従って、ヴェルディの創作力の円熟期に作曲され たのである。

このレクイエムは7曲から成る。

第1曲Requiem(レクイエム)は、"Requiem æternam dona eis, Domine"(主よ、永遠の安息を彼らに与えたまえ)の静かな合唱で始まり、やがてテノール独唱と4重唱と合唱による"Kirie eleison"(主よ、憐れみたまえ)に移行する。

第2曲Dies irea(怒りの日)は、このレクイエム全体の半分を占め、壮大で最もドラマチックな部分になっている。その冒頭は、ティンパニとバス・ドラムの連打から、合唱による「怒りの日」のテーマが歌われる。最後の審判の恐怖を想起させるような強烈なテーマである。この衝撃的な合唱はその後2回繰り返され、第7曲目にも再現する。続いて、バンダ(舞台脇の奏者)のトランペットが響き渡り、これが盛大なファンファーレに発展し、"Tuba mirum"(奇しきラッパの響き)の合唱とバス独唱を導く。次の"Liber scriptus"(書き記された書物が)は、メゾソプラノの独唱、そのバックで合唱が裁きの庭に引き出される恐怖を"dies irae"



と繰り返して歌う。続く"Quid sum miser"(哀れな私)は、ソプラノ、メゾソプラノ、テノールの3重唱。 "Rex tremendæ"(恐るべき御稜威の王)は4重唱と合唱、繰り返される"salva me"(私を救いたまえ)の訴えが印象的である。"Recordare"(思い出したまえ)はソプラノとメゾソプラノによる2重唱。 "Ingemisco, tamquam reus"(私は罪人のように嘆き)はテノール独唱で、オペラのアリアそのもの。 "Confutatis"(呪われた者)はバス独唱、これもオペラチックである。"Lacrymosa"(涙の日)は、メゾソプラノの独唱で始まるよく知られた曲である。 4重唱と合唱の共演になって最大限に盛り上がった後、"Pie Jesu"(慈しみ深き主、イエスよ)に入って、安息を願い静かに終わる。

第3曲"Domine Jesu Christe(Offertorium)" (主イエス・キリストよ 奉献唱)は、ソリストによる 4重唱。チェロによる導入が印象的で、またソリス トによる独唱と重唱の対比が素晴らしい。

第4曲"Sanctus"(聖なるかな)は、ダブルコーラス(2重合唱)で歌われる極めて技巧的なフーガである。ヴェルディが重視した対位法が存分に生かされている。

第5曲"Agnus Dei"(神の子羊)は、ソプラノとメ ゾソプラノの2重唱で始まり、合唱が同じメロディー を繰り返す。天使が歌うような美しく純粋な曲。

第6曲"Lux æterna"(永遠の光)は、メゾソプラ ノの独唱にはじまり、テノールとバスが加わって、3 重唱になる。合唱の出番はない。弦のトレモロが 永遠の光を象徴するように響く。

第7曲"Libera me"(私を解き放ちたまえ)は、終曲にふさわしいドラマチックな構成になっている。ソプラノの"Libera me"の朗唱で始まり、合唱がそのつぶやきを繰り返す。「怒りの日」のテーマが再現され、それが終わると「レクイエム」の冒頭が出現する。そこからソプラノ朗唱が繰り返され、突如合唱のアルトによる"Libera me"のパートソロに移り、ソプラノ、バス、テノールが順次加わる。この壮大なフーガは、ソプラノ独唱が加わって光を添え、"Libera me"の最弱音になってこのレクイエムは終わる。

このレクイエムに対しては批判的な意見もある。 ローマ・カトリック教会では、レクイエムは死者の 追悼のためのミサ曲であり、その冒頭部「主よ、永 遠の安息を彼らに与えたまえ」にあるように、死者 の安息を祈る曲とされる。批判は、ヴェルディのレ クイエムは、そうした安息を願う厳粛な典礼作品 にふさわしくないというのである。しかし、よく考え てみると、死者は既に安息の域にあり、もはや祈 りの歌声は届かない。真に心の安息が必要なの は、残されて悲しみにくれる人たち、また、これか ら厳しい人生を生き続ける人たちである。その人 たちのためにこそレクイエムは歌われるべきなので ある。逆説的であるが、レクイエムは「死者ミサ」 でありながら、実は死者のためではなく生者のた めの音楽なのである。ヴェルディのレクイエムは、 「怒りの日」の強烈なテーマで死の恐怖を駆り立 てるが、それに続いて「私を救いたまえ」と切実に 訴えを繰り返す。さらに、その訴えに呼応するかの ように救いの美しい、感動的な音楽が随所に現 れる。その大いなる起伏に富んだミサ曲は、まさ に人生のドラマを体現したかのようである。

ヴェルディは、そのオペラの中で、あらゆる形の 愛・憎しみ・喜び・悲しみ・嫉妬・悔悟、そして絆・友 情・裏切り・復讐といった人生のドラマを音楽にし てきた。数々のオペラの名作を生み出してきた彼 にとって、このレクイエムは壮大なドラマにならざ るを得なかったのである。この曲は、ローマ・カトリッ ク教会の典礼文に忠実に従ってはいるが、実はそ れを超えて、人生そのものを想起させるドラマチッ クなオペラになっている。実は、モーツアルトのレ クイエムにしても、ブラームスのドイツレクイエムに しても、同じく典礼文や聖書のテキストに忠実で ありながら、単に死者の安息を願うだけではない ドラマがある。それというのも、レクイエムが死者 のためにあるのでなく、残された人たちのためにあ り、その心の安寧や感動を願って歌われるからだ と思う。本日は、この最もドラマチックなレクイエ ムを楽しんでいただければ幸いである。

テノール 上野紘機

被災地音楽復興支援活動のご報告

過去5回の追悼チャリティコンサートの純益金と 会場で皆様からご寄附いただいた義援金は、東日 本大震災の被災地の音楽復興に役立てていただく ために、再生ピアノ等の楽器類をお届する費用に充 てさせていただきました。これまでの実績は、別記 の通りです。

再生ピアノは、有志の方などから中古ピアノの寄贈を受け、それを修理調律して新品同様に再生したものです。中古ピアノの寄贈と修理調律について、橋本ピアノ様と小野ピアノ工房様に採算を度外視したご便宜を計っていただいたことに厚くお礼を申し上げます。また、楽器類をお届けするだけでなく、ほとんどの施設に団員有志がボランタリーでお訪ねしてミニコンサートを催すなどして交流を深めることもできました。最初の頃は数名の訪問でしたが、回を重ねるごとに参加者も増え、最近では20名余りの団員とともに指揮者の前田幸康さんとピアニストの平野裕樹子さんが同行して下さることも一再ならずありました。

昨年の7月には、団員20名とウイーンを中心に活躍中のピアニストの石井里乃さんと追悼コンサート

のオーケストラメンバーであるバイオリニストの西本 徳子さんとともに大船渡市の2か所の老人福祉施設 を日帰りで往復しました。寄贈したピアノを囲んでの コンサートでは、合唱の他に、ピアノソロ、バイオリ ンとピアノのデュオ演奏も楽しんでいただきました。 「みんなで歌いましょう」セッションでは、ご当地ソ ング「北上川夜曲」や「北国の春」などを入所者や ご来場の近隣地域住民の方々と一緒に歌いました。 大きな声で歌ったり、手で拍子を取ったりして、皆さ ん楽しそうでした。

未曾有の大震災が起きたとき、アマチュアの合唱 団でも何か出来ることはないだろうかと手探りで始 めた追悼コンサートでしたが、多くの方々のご支援 ご協力により、団員一人一人の被災者と被災地への 思いが目に見える形となって表れていることは嬉し い限りです。被災地の復興はいまだしの感がありま す。今後ともいろいろな形で被災地との関わりを続 けていければと願っています。

> 追悼コンサート実行委員長 テノール 塩谷隆英



鵜住居町「五葉寮」



石巻市「アリス保育園」



名取市「なとり」



石巻市「ふたば保育所」

★再生ピアノ(計14台)

宮古市介護老人保健施設「ほほえみの里」 (後に再建されたグループホーム「たろう」に移管) 岩手県田野畑村特別養護老人ホーム「リアス倶楽部」 岩手県岩泉町グループホーム「いわいずみ」 釜石市託児施設「虹の家」 仙台市特別養護老人ホーム「春の森から」 名取市介護老人保健施設「なとり」 岩手県大槌町「大槌保育園」(2台) 岩手県大槌町吉里吉里「吉祥寺」 釜石市鵜住居町「鵜住居保育園」 釜石市鵜住居町養護老人ホーム「五葉寮」 大船渡市ケアホーム地域交流スペース「後ノ入」 大船渡市地域密着型

介護老人福祉施設ふれあいハウス「つばき」 宮古市認定こども園「ひかり」

- ★電子ピアノ・クラビノーバ(計2台) 石巻市私立「アリス保育園」 石巻市市立「ふたば保育所」
- ★鼓笛隊用ドラムなど 岩手県大槌町「みどり幼稚園」 岩手県鵜住居町「鵜住居保育園」
- ★マラカス 岩手県鵜住居町「吉里吉里保育園」



大船渡市「後ノ入」



大船渡市「つばき」



大船渡市「後ノ入」石井里乃さんと西本徳子さんのデュオ



仙台市「春の森から」

2016年のクリスマスには、これまでに 楽器をお届けした全施設に歌が聴 こえるクリスマスツリーの立体型カー ドをお送りしました。『老人福祉施設 には「クリスマスソングメドレー」、保 育施設には「アンパンマンのおしゃべ り入りクリスマスソングメドレー」、ど ちらもとても楽しんでいただいたとの おたよりもいただきました。





東日本大震災メモリアル管弦楽団出演者

◆第1ヴァイオリン

藤田めぐみコンサートミストレス

海保あけみ

徳井えま

眞中望美

上原まさみ

國吉紫苑

吉川哲生

◆第2ヴァイオリン

原ゆかり

吉原葉子

西本徳子

松﨑素子

真中千晴

小嶋佳奈

◆ヴィオラ

河合訓子

原口朝子

磯 晃男

千年美菜子

加藤 熙

前田利祐

◆チェロ

羽川真介

藤村俊介 羽川恵子

井崎瑛恵

夏秋裕一

加藤陽子

◆コントラバス

倉持 敦

布施砂丘彦

追栄 祥

◆フルート

野口博司

西田紀子

多久和怜子

◆オーボエ

大植圭太郎

小野寺彩子

◆クラリネット

兼氏規雄

野宮奈瑠実

◆ファゴット

鹿野智子

坂田在世

関本ささら

三宅由利子

◆ホルン

松﨑 裕

齋藤善彦

猪股和也

丸茂 新

◆トランペット

海保 泉

民谷和大

杉本道応 青木 光

(バンダ)

ディラン ローリー

若林克禎

石田 諭

荻野伽菜

◆トロンボーン

今込 治

東川暁洋

山口隼士

◆チンバッソ

本間雅智

◆パーカッション

石川達也

山口智文

東日本大震災メモリアル合唱団出演者

◆ソプラノ 会田睦子 相場昭子 青瀧憲子 稲垣知子 浦沢千代 岩谷正子 碓井砂緒里 大森みま子 岡田米子 岡本智子 荻野直美 尾関知子 柏野由利子 川崎由紀子 加藤方子 菊地和子 橘田浩子 木村芳枝 久保田恵子 栗原汐里 小池直子 小林真利子 齋藤優子 酒井 都 坂井田廣子 佐々木愛子 佐々木緑 佐藤初美 滋野奈津美 篠塚智子 清水有紀子 清水由美子 須賀悦子 仙波京子 楚山静子 髙橋さつき 竹内史子

竹竹田中羽半藤村室山山吉渡内田中島津澤田岡木口下田辺真貴麻知里亜桂麗梨恵文小信名子奈恵美貴子子沙子子智子名子亲

◆アルト 青木香子 青木由実子 荒井華子 伊藤静子 岩端由美子 大井園子 加倉井今日子 河田美由紀 熊谷 空 黒田有里子 小林史子 小林陽子 佐藤容子 白井悦子 髙橋洋子 瀧来佐穂 津賀恵理 遠山木乃美 豊田由起子 中尾理江 長尾容子

長島淳子

野澤久美子

野平松真宮村村森森守安矢山山島石田野城上上 田屋田野田田幸恵和美佳明照米君 育良久ゆ代津子千代美子子子静子子子かり

◆テノール 石井泰裕 伊藤正徳 上野紘機 太田紘子 大谷 淳 金田敏也 蒲地久司 岸 柾文 栗原康明 小谷一夫 塩谷隆英 鈴木 昻 富松太基 長尾正樹 永野康雄 成田本行 沼野 博 原田保孝 細川 仁 町村憲彦 間部健太郎 溝井令一

宗友従員 森 康一 吉野武彦 吉松 崇

◆バス 青木修三 荒川昌夫 市井善博 今西健一 梅田正太 遠藤 明 大橋正教 小林芳郎 近 正明 三才萬里 滋賀秀實 鈴木 徹 髙橋正夫 竹内智之 田澤雅昭 任田弘道 長崎幸司 野辺博康 広畑俊成 干場信之 松本大四 三木祥史 森 正明 栁沼 壽 山岡成行 山口 和 田田 亮 山本洋一 吉富六郎 渡辺信之

本チャリティコンサートの純益金について

本チャリティコンサートの純益金は、今回も東日本大震災被災地の音楽復興に直接役立つように使わせていただきます。 第1回から第5回までのコンサート純益金による被災地支援活動に関しては、本プログラム12、13ページおよび東京合唱団ホームページにご報告しているとおりです。

●東京合唱団次回定期演奏会

2017年11月11日 (土) 2:00pm 開演 紀尾井ホール

曲目 ドヴォルザーク: スターバト・マーテル 指揮 前田幸康 管弦楽 東京KMG管弦楽団



〈入団ご希望の方は事務局までご連絡ください〉 東京合唱団事務局 Tel.090-1701-3438 Fax.03-3395-2546 e-mail tokyochor@gmail.com 東京合唱団ホームページ http://tokyochor.jp

本公演にご支援をいただいた方々

後援:秋田魁新報社

岩手日報社

河北新報社

公益財団法人 北区文化振興財団

北区合唱連盟

時事通信社

台東区合唱連盟

東奥日報社

トムソン・ロイター

日本経済新聞社

福島民報社

福島民友新聞社

山形新聞·山形放送

読売新聞社

(五十音順)

協賛:株式会社クラレ

前田幸康サポータークラブ

星 佳芳

(順不同、敬称略)

ここにお名前を記していない多くの方々にも さまざまにご支援、ご協力を賜りました。 厚くお礼申し上げます。





故郷 (ふるさと)

岡野貞一 作曲 高野辰之 作詞 番場俊之 編曲

うさぎおいし かのやま こぶなつりし かのかわ ゆめは いまも めぐりて わすれがたき ふるさと

いかにいます ちちはは つつがなしや ともがき あめに かぜに つけても おもいいづる ふるさと

こころざしを はたして いつのひにか かえらん やまは あおき ふるさと みずは きよき ふるさと

東京合唱団

http://tokyochor.jp